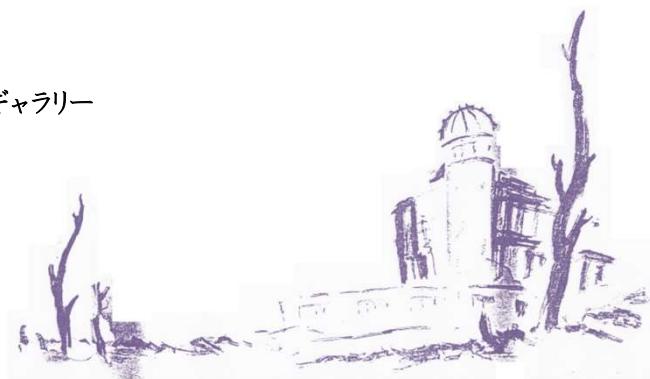


青龍亭書藝院展

～～ 青山念海 卒寿記念書作展 ～～

日時：令和元年8月3日～6日

場所：東広島芸術文化ホールくらら 回廊ギャラリー



原爆行

怪光一綫蒼旻より下る 忽然地震ひ天日昏し 一刹那の間 陵谷変じ 城市臺榭灰燼に帰す
此の日死する者三十萬 生者は創を被り悲しみ且つ呻く 死生茫茫識る可からず
妻は其の夫を求め兒は親を覓む 阿鼻叫喚 天地を動かす 陌頭血流れて屍横陳す
殉難 命を殞すは戦士に非ず 害を被るは総て是れ無辜の民 広陵の惨禍未だ曾て有らず
胡軍更に襲ふ崎陽の津 二都荒涼 鷄犬盡き 壞墻墜瓦 人を見ず
是の如き残虐は 天の怒る所 驕暴更に過ぐ狼虎の秦
君聞かずや 啾啾たる鬼哭 夜旦に達し 残郭雨暗くして青燐の飛ぶを

土屋竹雨詩

怪光一綫下蒼旻忽然地震天日昏一刹那間陵谷變城
市臺榭歸灰塵此日死者三十萬生者被創悲且呻死生
茫茫不可識妻求其夫兒覓親阿鼻叫喚動天地陌頭血
流屍横陳殉難殞命非戰士被害總是无辜民廣陵慘禍
未曾有胡軍更襲崎陽津二都荒涼難大盡壞墻墜瓦不
見人如是殘虐天所怒驕暴更過狼秦君不聞啾啾鬼
哭夜達旦殘郭雨暗飛青燐

蘇土屋竹雨原爆行乙酉原爆忌念海



広陵＝広島 崎陽＝長崎



これたビルディングの
 地下室の夜であつた
 原子爆弾の負傷者達は
 くらいつく一年の地下室
 うすうすい暗い地下室
 生かす血の臭い死臭
 汗を流す死臭
 うめき声
 その中から不思議な声が
 聞こえて来た
 「赤ん坊が生まれる」と同時に
 この地獄の底のうめき
 地下室で
 今、若い女が
 産気づいているのだ
 マッチ一本ないくらの中
 どうしたらいいだろう
 人々は自分の痛みを忘れて
 死んでいく
 と、
 「私が産婆です。
 わたしが生ませよう」と
 うめき声はささやいて
 うめき声は重傷者だ
 いそぐ赤ん坊の地獄の底で
 若い生命は生まれた
 かくてあかつきを待たず
 産婆は血まみれのまま死んだ
 生かしめん哉
 生ましめんかな
 己が命捨つとも
 録原貞子詩
 平成二十二年原爆忌
 青山念海

生ましめん哉
 これたビルディングの地下室の夜だった
 原子爆弾の負傷者たちは
 ロンク一本ない暗い地下室を
 うずめて、いっぱいだった
 生ぐさい血の匂い、死臭
 汗くさい人いきれ、うめきごえ
 その中から不思議な声が聞こえて来た
 赤ん坊が生まれると言うのだ
 この地獄の底のような地下室で
 今、若い女が産気づいているのだ
 マッチ一本ないくらの中
 どうしたらいいのだろう
 人々は自分の痛みを忘れて気づかった
 と「私が産婆です。私が生ませましょ」と
 言ったのは
 さっきまでうめいていた重傷者だ
 かくてくらの地獄の底で
 新しい生命は生まれた
 かくてあかつきを待たず産婆は
 血まみれのまま死んだ
 生ましめんかな
 生ましめんかな
 己が命捨つとも
 栗原貞子詩

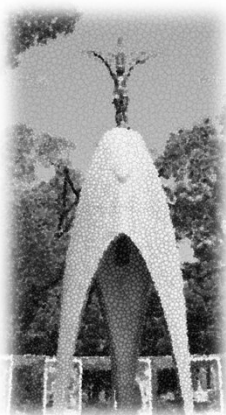
閃光 嫩葉を炮き
 紅涙 墟中に満つ
 白塔 千羽の鶴
 長鳴 落爆の空
 原爆少女の像
 平池南桑詩
 録原貞子詩
 平成二十二年
 原爆忌
 青山念海

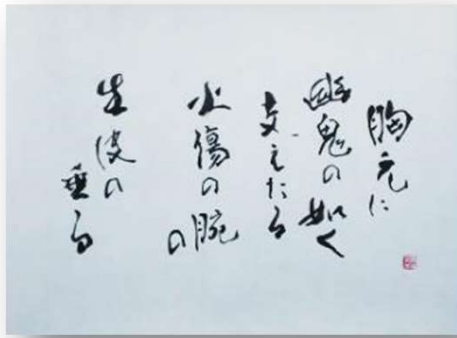
原爆少女の像
 閃光 嫩葉を炮き
 紅涙 墟中に満つ
 白塔 千羽の鶴
 長鳴 落爆の空
 平池南桑詩

※注 嫩葉 どんよう
 新緑の葉 わかば
 原爆の閃光は若い人たちを一瞬で
 焼き尽くし
 血の涙は 市街に満ちた

今、白い塔の頂に立った少女はか
 つて原爆が落とされたひろしまの
 空へ自らが折った弦を高々とか
 けている

広島平和記念公園内 原爆の子の
 像は、原爆による白血病で亡く
 なった佐々木慎子の同級ら生によ
 り作られた





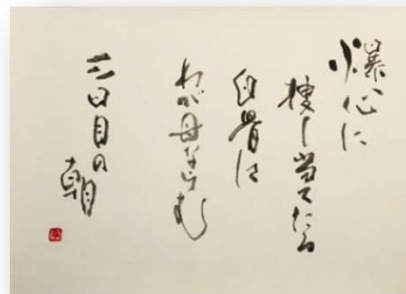
胸元に
幽鬼の如く
支えたる
火傷の腕の
生皮の垂る

自詠



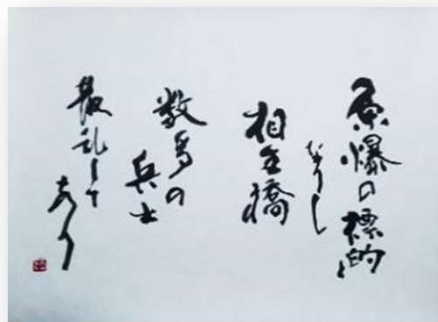
炎天に
連なり続く
被爆者の
地獄のさまの
宮島街道

自詠



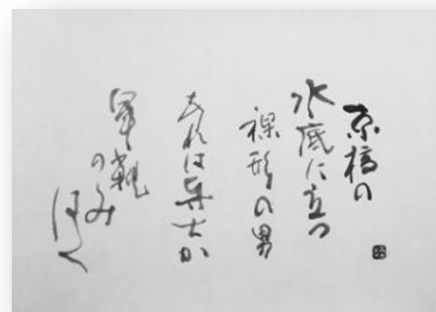
爆心に
捜し当てたる
白骨は
吾が母ならむ
三日目の朝

自詠



京橋の
水底に立つ
裸形の男
あれは兵士
軍靴のみは

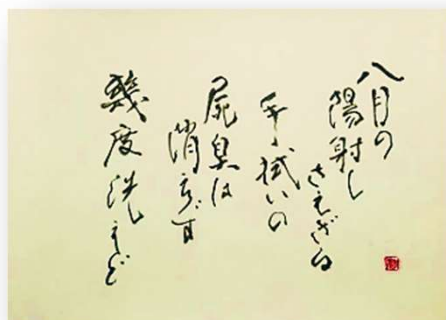
自詠



八月の
陽射し
手拭いの
屍臭は消えず
幾度洗えど

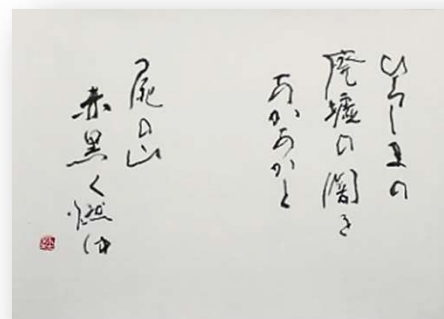
ひろしまの
廃墟の闇を
あかあかと
屍の山
赤黒く燃ゆ

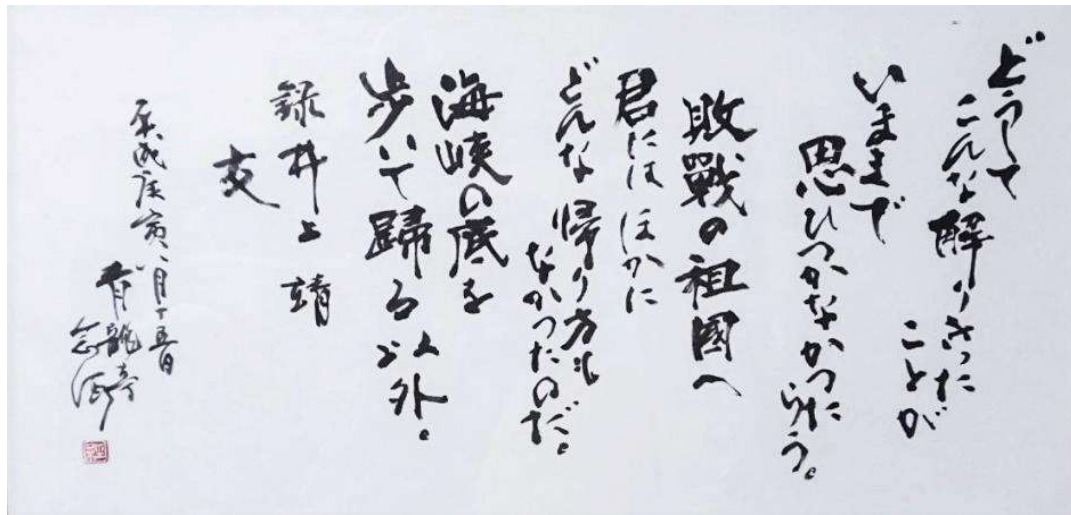
自詠



八月の
陽射し
さえぎる
手拭いの
屍臭は消えず
幾度洗えど

自詠

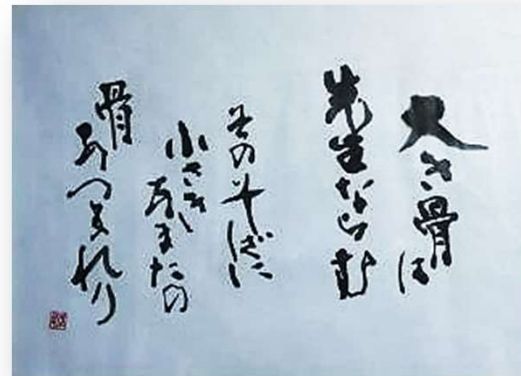




どうして
こんな解りきったこ
とがいままで
思いつかない
敗戦の祖国へ
君にはほかに
どんな帰り方も
なかったのだ
海峡の底を
歩いて帰る以外

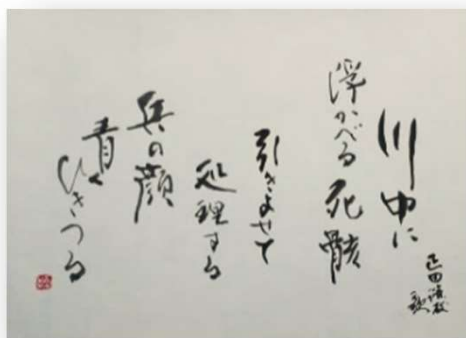
井上
靖詩

友



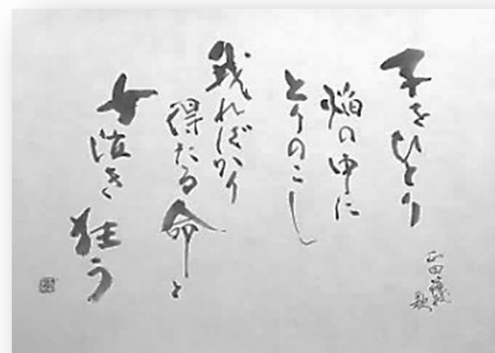
大き骨は
先生ならむ
そのそばに
小さきあまたの
骨あつまれり

正田
篠枝詩



川中に
浮かべる死骸
引き寄せて
処理する
兵の顔
青くひきつる

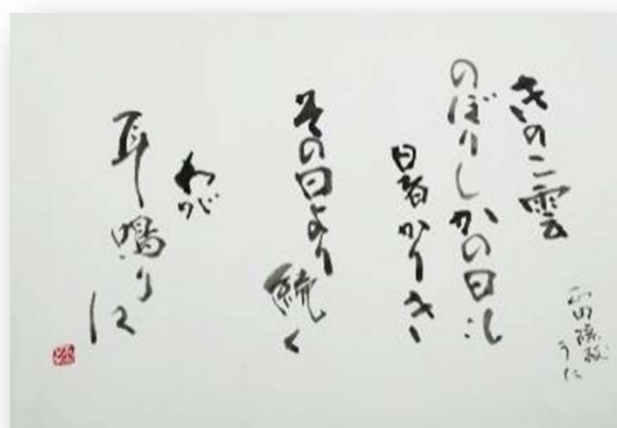
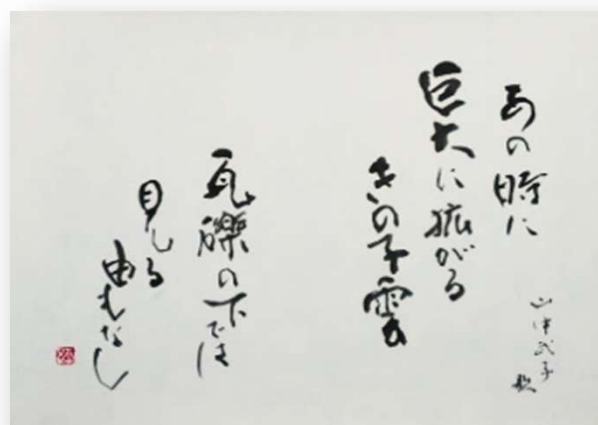
正田
篠枝詩



子をひとり
焰の中にとりのこ
し
我ればかり
得たる命と
女泣き狂う

あの時に
巨大に広がる
きのこ雲
瓦礫の下では
見る由もなし

山田武子詩



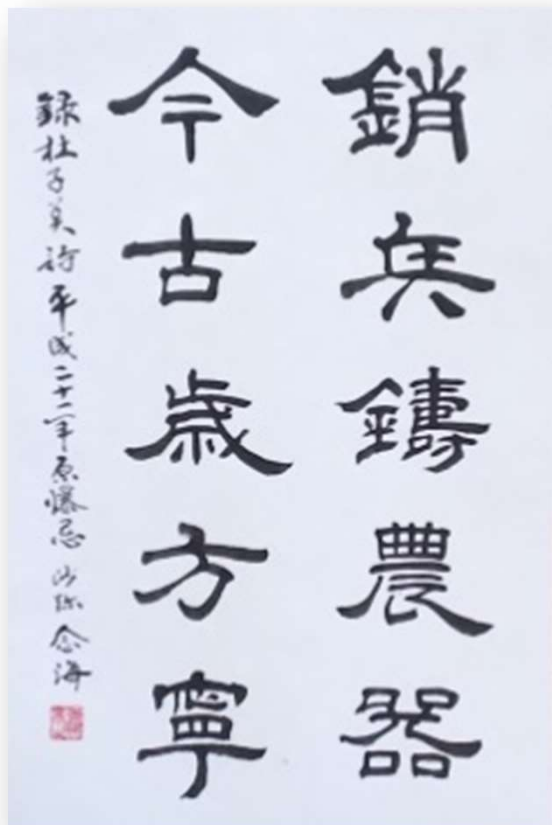
きのこ雲
のぼりしかの日も
暑かりき
我が耳鳴りは

山田武子詩

座したまま
男女も判らず
焦げし人
市電の中に
まなこ
みひらき

山田武子詩

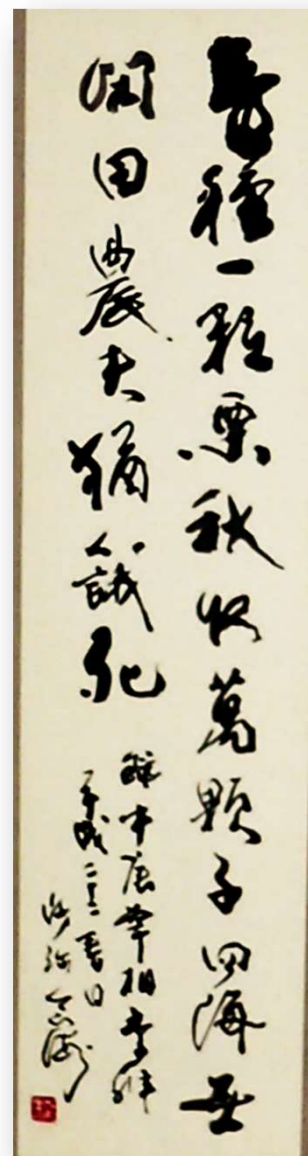




銷兵鑄農器

古今歲方寧

杜甫 奉酬薛十二丈判官見贈

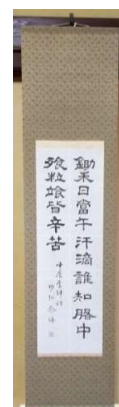
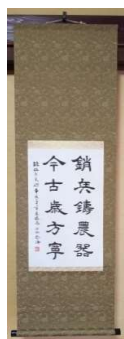


春種一粒粟

四海無閒田

秋收萬顆子

農夫猶餓死



春に種く一粒の粟

秋に成る萬顆の子

四海閒田無けれど

農夫猶ほ餓死するが

ごとし

禾を鋤きて日午に當たり

汗は禾下の土に滴る

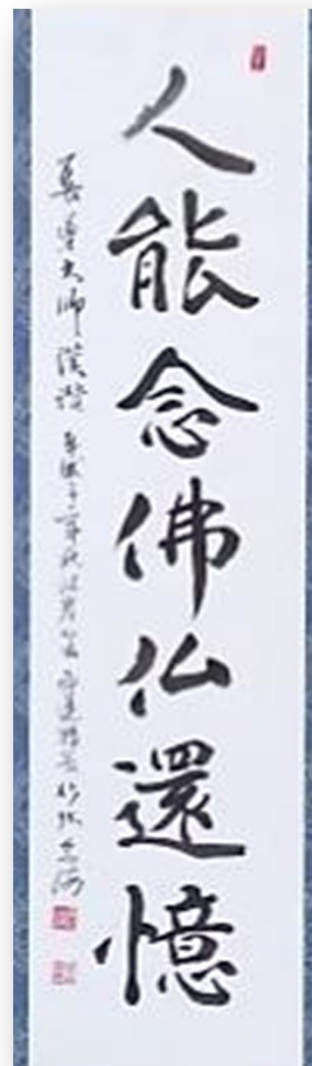
誰か知らん盤中の餐

粒粒皆な辛苦 全文

李紳詩 農を憫む

人能念佛佛還憶

善導大師『般舟讚』



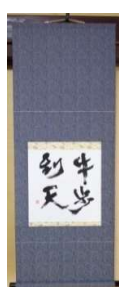
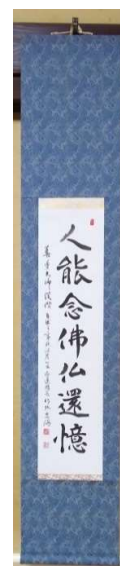
乃知兵者是凶器 聖人不得已而用之

乃ち知る 兵者は是れ凶器にして
聖人は已むを得ずして之れを用ふ

李白 戰場南



牛步到天



光明遍照十方世界
念佛衆生攝取不捨
念海

光明遍照
十方世界
念佛衆生
攝取不捨

觀無量壽

佛佛所遊履 國邑丘聚 靡不蒙化 天下和順 日月清明 風雨以時
災厲不起 國豐民安 兵戈無用 崇德興仁 務修禮讓

仙の教化の及ぶ所は その徳によつて人々は安らかに暮らし
軍隊も兵器も無用になる

『無量壽經』

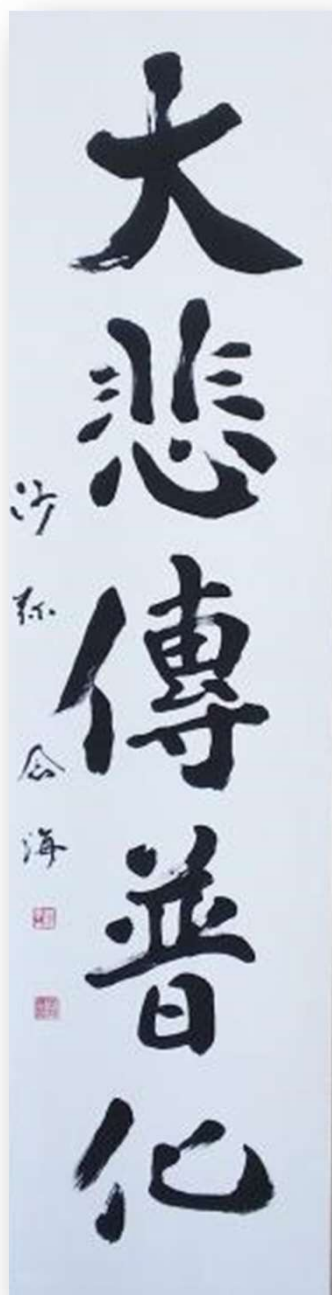
佛所遊履國邑丘聚靡不蒙化天下和順
日月清明風雨以時災厲不起國豐民安
兵戈無用崇德興仁務修禮讓

佛說無量壽經 平成二十年春彼岸會 西蓮精舍 沙弥念海





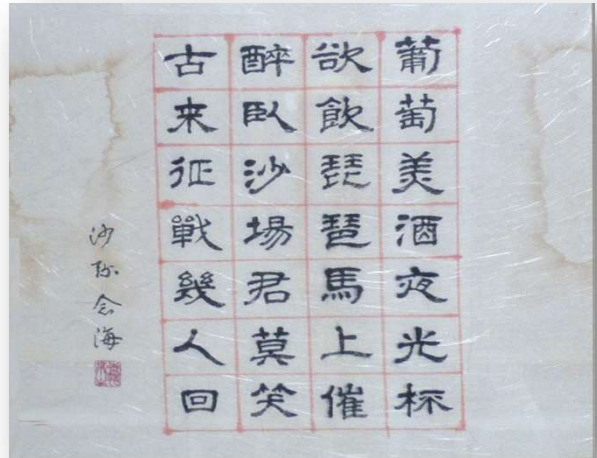
微妙和雅（みみょうわげ）『無量寿経』



大悲伝普化（だいひでんぷけ）

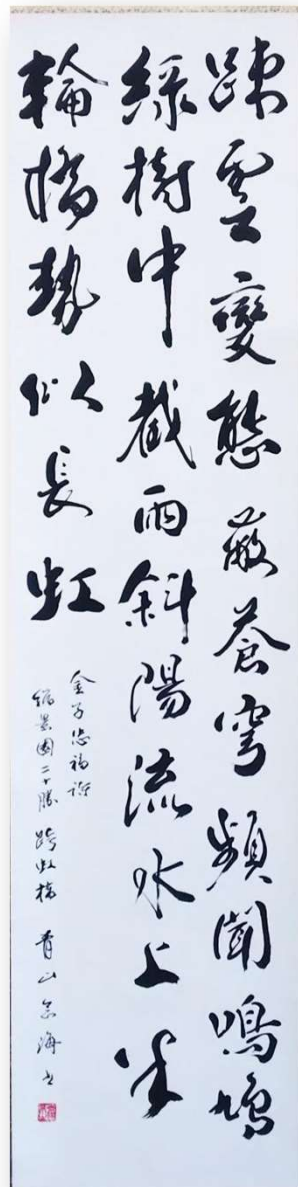
善導大師『往生礼讃』





葡萄酒の美酒 夜光の杯
飲まんと欲して琵琶
馬上に催す
酔うて沙場に臥すとも
君笑う莫れ
古來征戰 幾人か回る

王翰「涼州詩」



疎雲變態蔽蒼穹 頻聞鳴鳩綠樹中
截雨斜陽流水上 半輪橋勢似長虹

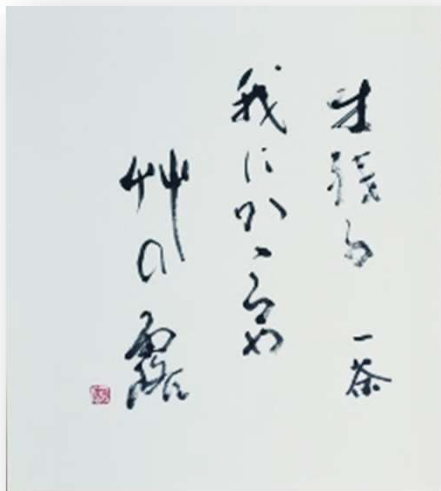
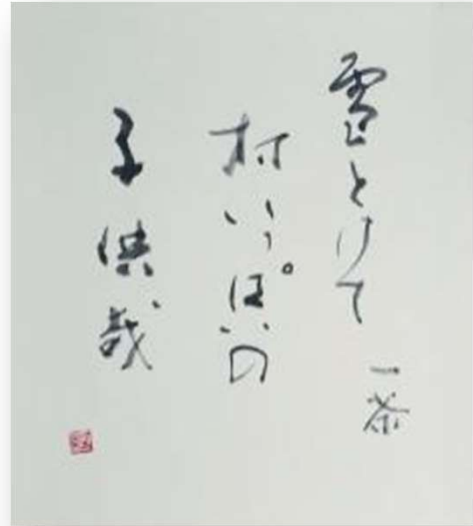
跨虹橋

疎雲態を變じ蒼穹を蔽ふ
頻りに聞く鳴鳩綠樹の中
雨を截つ斜陽流水の上
半輪橋 勢い長虹に似たり

金子忠福 「縮景園二十勝」



※注 金子忠福(楽山)は江戸時代 浅野藩の儒学者
藩の園亭現在の縮景園の跨虹橋を読んでいる



夕桜 家ある人は とくかへる
 生残る 我にかかるや 竹の露
 雪とけて 村いっぱいの 子供哉

一茶

《青山念海略歴》

- 昭和 4 年 広島市の産業奨励館（現在の原爆ドーム）の東隣にあった浄土宗 華臺山 西蓮寺の長男として出生。
幼名 香月経之介。書は父香月崇海に師事。
- 昭和 20 年 旧制中学四年生、原爆の爆風を勤労奉仕先の工場で受ける。爆心地の自宅は消失。母を失う。本人も被爆。
- 昭和 25 年 広島師範学校卒業、豊田郡（現東広島市）の小学校に奉職。その後、中学校教師として広島市内 3 校で教鞭をとる。教科は国語・書道。また演劇部の顧問としても多くの生徒を指導した。
- 昭和 62 年 教職を退職した後、書道教室を開き、青龍亭書芸院主宰として東広島市の文化発展に貢献。平安書道会無鑑査。記念碑や墓碑などの碑文の揮毫も多い。
東広島混声合唱団に入団。パートはベース。代表歴任。
現在最高齢団員。

